

よみきかせボランティアのための

おすすめえほん

2012夏－2020春（冊子版）

目次

おすすめえほん

小学校 1・2年	春	2
	夏	3
	秋	4
	冬	5
小学校 3・4年	春	6
	夏	7
	秋	8
	冬	9
小学校 5・6年	春	10
	夏	11
	秋	12
	冬	13
わらべうた		14
学校などでの読み聞かせのポイント		15
参考図書		16



おすすめえほん索引

あ行

あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま	No. 81
あたしもびょうきになりたいな！	No. 25
ありがたいこつてす！	No. 89
アキラからみると	No. 41
アンナの赤いオーバー	No. 90
あんな雪ごんな氷	No. 57
いしになったかりゅうど	No. 91
いっすんぼうし	No. 33
いっぱい やさいさん	No. 9
うさぎのみみはなぜながい	No. 82
うまたたやまんば	No. 49
ウラバン・オコサ	No. 10
王さまと九人のきょうだい	No. 34
おかえし	No. 1
おさをあらわなかったおじさん	No. 42
おさととぼうしうり	No. 58
おちゃんのじかんにきたとら	No. 17
おなかのかわ	No. 18
おぼけのジョージ	No. 26
お化けの真夏日	No. 43
おまたせクッキー	No. 50

か行

かさじぞう 日本の昔話	No. 59
かさどろぼう	No. 44
がちょうのベチューニア	No. 83
かにむかし	No. 19
かもさんおとり	No. 45
ガラスめだまときんのつのやぎ	No. 27
きこりとおかみ	No. 28
きつねのホイティ	No. 46
ギルガメッシュ王ものがたり	No. 65
くいしんぼうのはなごさん	No. 2
くまのピーディーくん	No. 29
クマよ	No. 66
くわずにようぼう	No. 35
くんちゃんのだいいょこう	No. 20
こいぬがうまれるよ	No. 11

こかげにころり	No. 73
こねこのチョコレート	No. 30
これがほんとの大きさ！	No. 51

さ行

さくら	No. 3
サリーのこけももつみ	No. 52
ジェイミー・オルークとおぼけイモ	No. 84
しっぽのはたらき	No. 12
しょうたとなつとう	No. 85
しろいうさぎとくろいうさぎ	No. 67
シンドバッドの冒険	No. 92
せかいいちおいしいスープ	No. 60
せかいでさいしよのポテトチップス	No. 68
世界のなぞかけ昔話 全3巻	No. 72
空とぶじゅうたん アラビアン・ナイトの物語より	No. 86

た行

ターちゃんペリカン	No. 13
だいくとおにろく	No. 14
だごだご ころころ	No. 53
たまごからうま	No. 74
たんぼぼ	No. 4
ちいさいおうち	No. 93
ちょうちんまつり	No. 75
チワノのにしき	No. 36
どうながのプレッツェル	No. 37
どこにいるの？シャクトリムシ	No. 38
トラのじゅうたんになりたかったトラ	No. 5
とりになったきょうりゅうのはなし	No. 39

な行

なにのあしあとかな	No. 21
なんでも見える鏡	No. 69
にくるまひいて	No. 87
二ひきのこぐま	No. 6
ねこのくにおきやくさま	No. 61
ねむりひめ	No. 76

は行

歯いしやのチュー先生	No. 47
はちうえはほくにまかせて	No. 15
はなのあなのはなし	No. 62
光の旅 かげの旅	No. 77
ひがなばな	No. 54
びっくり まつぼっくり	No. 22
ひよこのかずはかそえるな	No. 70
ふしぎなやどや	No. 71
富士山に のぼる	No. 96
ふるやのもり	No. 78
フレデリック ちょっとかわったのねずみのはなし	No. 94
ほく、だんごむし	No. 23
ほくのばんわたしのばん	No. 48
干し柿	No. 88
ほね、ほね、きょうりゅうのほね	No. 7

ま行

みかんのひみつ	No. 31
ものぐさトミー	No. 55

や行

やまなしもぎ	No. 56
ゆうかななアイリーン	No. 63
雪の写真家 ベントレー	No. 95
ゆきむすめ	No. 32
よあけ	No. 79
よるのねこ	No. 64

ら行

ラン バン バン インドみんわ	No. 40
ろくべえまってるよ	No. 8
ロバのシルベスターとまほうの小石	No. 80

わ行

わゴムはどのくらいびるかしら？	No. 24
わたし	No. 16



1

おかえし

村山桂子/作 織茂恭子/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約7分



たぬきの家の隣に引っ越してきたきつねの奥さんが、イチゴをもって挨拶にきました。たぬきの奥さんは、そのお返しにタケノコをもっていきます。そのまたお返しに、きつねがお花と花瓶をもってきます。そのお返しに、たぬきが絵と壺をもっていきます。延々と続くお返し合戦の様子を、両端に描かれた2軒の家の変化で面白く見せています。

2

くいしんぼうのはなこさん

いしいももこ/文 なかたにちよこ/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約13分



春になって、子牛のはなこは山の牧場に行きます。はなこは、集まってきた子牛たちみんなを負かして女王になると、威張り放題。ある日、お百姓が持ってきたおいもとかぼちゃを独り占めします。すると翌朝、アドバルーンのように膨らんでしまっ…。
ユーモラスな文とやさしい色の絵がびっぴりの絵本。

3

さくら

長谷川摂子/文 矢間芳子/絵・構成
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約6分



ソメイヨシノの1年間を写実的で美しい絵とリズム感のある文で描いた科学絵本。春、花びらが散ると小さな葉っぱが出てきます。実がなり、葉が茂り、夏には虫たちが集まり、秋には葉が色づきます。やがて冬を迎えると葉が散ってしましますが、寒さの中で小さな芽は静かに生きています。ふたたび春が廻ってくると見事に花を咲かせます。桜の時期に。

4

たんぽぽ

平山和子/文・絵 北村四郎/監修
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約5分



冬の間、葉を低く地面に広げ、葉を守っていたたんぽぽ。暖かくなると新しい葉を出して立ち上がり、花を咲かせ、実をつけ、綿毛となり飛びたち、また様々な場所に根付いていきます。4ページにわたって描かれる長い根や240もの小さな花からできている花の様子など、子どもの興味を引く科学絵本。

5

トラのじゅうたんになりたかったトラ

ジェラルド・ローズ/文・絵 ふしみみさを/訳
岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約8分



むかしインドのジャングルにすんでいたやせこけたトラは、宮殿でごはんを食べる王さまと家族がうらやましくてたまりません。ところがある日、召使がトラの毛皮の絨毯を干すのをみて、ひらめきます。
色鮮やかな絵に愉快なストーリーが子どもたちをひきつけます。

6

二ひきのこぐま

イーラ/作 松岡享子/訳
こぐま社

読み聞かせ
所要時間
約7分



春を待ちかねて、外へ出てきた2ひきのこぐま。お母さんの留守に、言いつけを忘れ草原をどんどんかけ、遊びに夢中になるうち、家から遠く離れてしまします。迷子になった2ひきは、心細くなりますが、なんとか家に帰ろうと歩き出します。実際のこぐまを撮らえたモノクロの写真で描かれた温かいストーリーの絵本。

7

ほね、ほね、きょうりゅうのほね

バイロン・パートン/作 かけがわやすこ/訳
ポプラ社

読み聞かせ
所要時間
約3分



「ほねは ないか、ほねは ないか」とシャベルやツルハシを持った人たちが、恐竜の骨を探して、博物館に運んで組み立てるといったシンプルなストーリー。簡潔でリズムカルな文章と黒い線取りと明るい色の力強い絵が読み聞かせにぴったりです。

8

ろくべえまってるよ

灰谷健次郎/作 長新太/絵
文研出版

読み聞かせ
所要時間
約8分



1年生のえいじくんたちは、深くて真っ暗な穴にイヌのろくべえが落ちているのを見つけ、救い出そうとします。「がんばれ」と言ったり、シャボン玉を吹いたり、必死に知恵をしぼりますが…。
見開きの絵の向きが縦、横と入れ替わるので、スムーズにめくれるように練習しましょう。



9

いっぱい やさいさん

まど・みちお/文 斉藤恭久/絵
至光社

読み聞かせ
所要時間
約3分



まど・みちおの詩の絵本。見開きごとに、きゅうり、玉ねぎ、トマト、なすなどがみずみずしい水彩画で描かれ、短い詩が添えられています。野菜が野菜として生かされていることを喜んでいる様子が伝わってきます。言葉の心地よさを美しい絵とともに味わいたい絵本。

10

ウラパン・オコサ かずあそび

谷川晃一/作
童心社

読み聞かせ
所要時間
約3分



1と2の組み合わせだけでいろいろな物を数えていく絵本。1がウラパン、2がオコサ、3はオコサ・ウラパン、4はオコサ・オコサ。
「オコサ・オコサとそうがきたそう」
「のはらにやぎがオコサ・オコサ・ウラパン」と、ユニークな数遊びは、聞き手も一緒に声に出してくれることもあります。読み応えのある絵本と組み合わせましょう。

11

こいぬがうまれるよ

ジョアンナ・コール/文
ジェローム・ウェクスラー/写真 つばいいくみ/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約6分



「おとなりのいぬに あかちゃんがうまれるの。いっぴき わたしがもらうんだ！」子犬の誕生から、女の子に引き取られるまでの2カ月間をモノクロ写真でおった科学絵本。生まれた瞬間から、目が開いて、耳が開いて、歩きはじめる子犬の成長を丁寧に描きます。季節を問わず、幅広い学年におすすめです。

12

しっぽのはたらき

川田健/文 藪内正幸/絵 今泉吉典/監修
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約6分



「なんのしっぽでしょう？」紙面の右端に、動物のお尻としっぽが描かれ、問いかけを受けページをめくるとからだが見えます。
いぬはしっぽをふって自分の気持ちを表し、りすのしっぽはパラシュートの役目をする。問いと答えて11種類の動物のしっぽのはたらきを紹介します。写実的で美しい絵です。

13

ターちゃん和ペリカン

ドン・フリーマン/作 西園寺祥子/訳
ほるぷ出版

読み聞かせ
所要時間
約7分



夏休み、親子で海辺にキャンプに来たターちゃん。浜辺にいくと、去年出会ったペリカンが迎えてくれます。ターちゃんは、魚釣りに挑戦しますが、新しい長靴をなくしてしまい…。

ペリカンの口から長靴が出てくるページは、めくる前にたっぷり間をとって読みましょう。

14

だいくとおにろく 日本の昔話

松居直/再話 赤羽末吉/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約5分



流れの急な川に橋架けを頼まれ心配になった大工が、川を見つめていると、鬼が現れ、「目玉をよこせば代わりに橋を架けてやる」と持ちかけます。たちまち橋はできあがりますが、大工は目玉をとられたくありません。逃げ出す大工に、鬼は名前を当てれば許してやるといいますが…。

同じストーリーの昔話絵本が多数あるなかで、これがおすすめ。

15

はちうえはぼくにまかせて

ジーン・ジオン/作
マーガレット・ブロイ・グレアム/絵 もりひさし/訳
ペンギン社

読み聞かせ
所要時間
約8分



夏休みにどこへも行く予定のないトミーは、旅行にいく近所の人の鉢植えを1日2セントで預かることにします。植物はぐんぐんのびて、家の中はジャングルようになります。お父さんはイライラするし、トミーも植物で家が壊れてしまう夢をみますが…。

爽やかな絵のユーモラスな絵本。

16

わたし

谷川俊太郎/文 長新太/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約3分



「わたし」は、やまぐちみちこ 5歳。でも男の子からみると女の子。お兄ちゃんからみると妹。両親から見ると娘のみちこ。さっちゃんから見るとお友だち。犬から見ると人間。「わたし」はひとりなのに、視点が変わると呼び名も変わります。リズム感のある簡潔な言葉とユーモラスな絵がぴったりの絵本。



17

おちやのじかにきたとら

ジュディス・カー/作 晴海耕平/訳
童話館出版

読み聞かせ
所要時間
約5分



お茶の時間に大きなトラがやってきます。テーブルの食べ物や飲み物を全部たらいげ、そのうえ、冷蔵庫や戸棚の食べ物や飲み物も全部、最後には水道の水も全部飲んでしまいます。トラの礼儀正しいけれど、豪快な食べっぷりが、ナンセンスなおもしろさとなる絵本。

18

おなかのかわ

瀬田貞二/再話 村山知義/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約9分



オウムの家に招待されたネコは、ごちそうを食べ尽くし、オウムまで丸飲みにします。外にでると、道で会ったおばあさん、馬方とロバ、王さまも兵隊も次々に飲み込んでしまいます。最後に飲まれたカニが、はさみでネコのおなかに穴をあけると、丸飲みにしたものが次々とでてきます。ぺろりごくんと飲み込む繰り返しがおもしろい絵本です。絵は強い輪郭ではっきりしており遠くからもよく見えます。

19

かにむかし にほんのむかしばなし

木下順二/文 清水崑/絵
岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約11分



「さるかに合戦」の昔話絵本。「かにどん かにどん どこへゆく」「さるのばんばへ あだうちに」の問答や、ユーモラスな擬音が繰り返され、耳で聞くとより印象的です。文章には独特なリズムがありますので、よく練習してから読んでください。サルが仇討にあう場面は、次ページの文を読みながら絵を見せましょう。

20

くんちゃんのだいいりょう

ドロシー・マリノ/文・絵 石井桃子/訳
岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約6分



ある日、子ぐまのくんちゃんは南へ渡っていく鳥たちをみて、自分も南の国へ行ってみることにします。ところが丘の上の松の木のとこで、お母さんにさよならのキスをしてこなかったことに気づき丘をかけ降り、お母さんにキスをして、また出かけます。丘の上の松の木のとこまでくると、今度は双眼鏡が必要なことに気づきます。何度も家に戻ろうち、とうとうくんちゃんは眠たくなって…。

21

なにのあしあとかな

やぶうちまさゆき/作
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約3分



動物画家として著名な作家の図鑑絵本。見開きページで、動物の足跡の絵と「なにのあしあとかな」という文章で問いかけ、次ページで答えるという繰り返して、表紙もあわせて全部で9種の足跡を紹介していきます。読み聞かせでは、聞き手とのやり取りが楽しめます。

「なにのこどもかな」など同形式の絵本は他にも3冊。

22

びっくり まつぼっくり

多田多恵子/文 堀川理万子/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約3分



まつぼっくりの科学絵本。男の子がまつぼっくりを拾って、公園の柵に並べて帰ると、雨の日、小さくなっていました。「どうしちゃったの、まつぼっくり。」と持ち帰ると、翌朝にはすっかり開いて元に戻っていました。

開いたり閉じたりするまつぼっくりを使っての手品を紹介しています。読み聞かせのときは「びんづめまつぼっくり」を作っていくのがおすすめです。

23

ぼく、だんごむし

得田之久/文 たかはしきよし/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約8分



ダンゴムシは何を食べるの？ 枯れ葉や人間が出す食べ物のかす、死んだ虫、ダンボールだけでなく、時々コンクリートや石も食べます。他にも身の守り方、脱皮、産卵、越冬など、ダンゴムシの生態をダンゴムシが一人称のお話風に描く科学絵本です。

絵は貼り絵で温かみがあり親しみやすいです。

24

わゴムはどのくらいのびるかしら？

マイク・サーラー/文 ジェリー・ジョイナー/絵
きしだえりこ/訳
ほるぷ出版

読み聞かせ
所要時間
約3分



ある日、ほうやは輪ゴムがどのくらい伸びるか試してみることにしました。輪ゴムの端をベッドの柵に引っ掛けて、一方をしっかりとって外へ。自転車に乗って、バスに乗って、汽車に乗って、飛行機に乗って、船に乗って、最後はロケットに乗って月へ！

楽しいナンセンス絵本です。



25

あたしもびょうきになりたいな！

フランツ＝ブランデンベルク/作
アリキ＝ブランデンベルク/絵 ふくもとゆみこ/訳
偕成社

読み聞かせ
所要時間
約4分



病気になった弟のエドワードは、お母さんやお父さん家族みんなからやさしくされます。でも元気なエリザベスは、自分ひとりで、何でもしなくてはなりません。「あたしもびょうきになりたいなあ！」と思っていると、数日後、エリザベスは本当に病気になってしまいます。すると今度は…

同姉弟の絵本は他にも3冊あります。

26

おばけのジョージ

ロバート・ブライト/作・絵 光吉夏弥/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約5分



おばけのジョージは、ホイットィカーさんの家に住んでいて、毎晩同じ時間に階段をミシリ、ドアをギーといわせて時間を知らせていました。ところがある日、家の修理をして音がしなくなってしまうと、みんなは時間がわからなくなってしまう。

ユーモラスなモノクロのペン画が親しみやすい絵本です。

27

ガラスめだまときんのつなのヤギベラルーシ民話

田中かな子/訳、スズキコージ/画 福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約8分



おばあさんの畑では、麦が青々と茂り大きくなりました。そこへ、ヤギがやってきて、畑を荒らしてしまいます。おばあさんがヤギを追い出そうとしても、でていきません。クマやオオカミやきつねにも追い出すことができずにいると、そこへはちがやってきて…

コラージュの手法で痛快に描きます。

28

きこりとおおかみ フランス民話

山口智子/再話 堀内誠一/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約7分



森のはずれに住むきこりとおかみさんがスープを作っていると、オオカミがやってきます。熱々のスープをぶっかけて二人は難を逃れますが、1年後、きこりは仲間を引き連れたそのオオカミに、森で出会ってしまいます。

きこりとオオカミのスリリングで愉快な知恵くらべの話と臨場感のあるダイナミックな絵が、幅広い学年の読み聞かせに向きます。

29

くまのビーディーくん

ドン・フリーマン/作 松岡享子/訳
偕成社

読み聞かせ
所要時間
約7分



ビーディーくんは、セイヤーくんという男の子が持っているおもちゃのクマです。ある冬の日、クマが洞穴にすむ動物だと知ったビーディーくんは、自分の住処となる洞穴を探し出かけます。ところが洞穴は暗くて寒くて、ゴツゴツしてて全然眠れません。洞穴で楽しく暮らすためビーディーくんは、枕や懐中電灯や新聞を家から運び込みますが…

モノクロの絵が素朴で印象的な絵本。

30

こねこのチョコレート

B.K.ウィルソン/作 小林いづみ/訳 大社玲子/絵
こぐま社

読み聞かせ
所要時間
約11分



4歳の女の子ジェニーは、弟クリストファーの誕生日の前日、子ねこの形のチョコレートを買いました。ところがその夜、ジェニーはたんずにしまった子ねこのチョコレートが気になって眠れません。そしてベッドをぬけだし、チョコレートをひとつづつ、またひとつづつと食べてしまっ…

31

みかんのひみつ

岩間史朗/写真撮影 鈴木伸一/監修
ひさかたチャイルド

読み聞かせ
所要時間
約5分



みかんの実の特徴や、みかんの成長過程、みかんの仲間の果物などを美しい写真で紹介する科学絵本。最初の見開き一面がだいたい色で、「これなーんだ？」の問いかけではじまります。聞き手とのやりとりも楽しめます。最後の見開きには22種類のみかんが並びます。

身近なみかんへの興味が広がる1冊。

32

ゆきむすめ ロシアの昔話

内田莉紗子/再話 佐藤忠良/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約5分



ある冬のこと、子どものいないおじいさんとおばあさんが雪で女の子をつくると、突然その女の子が歩き出します。二人は大喜びで、ゆきむすめと名づけ、かわいがりますが、冬が過ぎ暖かくなるとゆきむすめは、だんだん元気がなくなり…

ロシアの雪にまつわる印象深い昔話を素朴な絵で描きます。



33

いっすんぼうし

いしいももこ/文 あきのふく/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約12分



親指くらいの大きさしかない小さな一寸法師は、ひと働きするため、お椀の舟にのって都へのぼり、大臣のお姫さまに仕えることになります。ある日、お姫さまのお供で清水寺にでかけた帰り、3匹の鬼があらわれます。

有名な昔話を再話した絵本。平安時代の雰囲気を感じさせる絵が華やかで、美しい文章とよく調和しています。

34

王さまと九人のきょうだい 中国の民話

君島久子/訳 赤羽末吉/絵 岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約13分



子どものいない老夫婦が、池の中から現れた老人に子どもが授かる丸薬を9つもらいます。生まれた9人は「ちからもち」「くいしんぼう」「はらいっぱい」等と名付けられます。大きくなった「ちからもち」が、倒れてしまった宮殿の大きくて重い柱をなおしたことで、王様は恐れをなし次々と難題をふっかけてきますが…。中国イ族の痛快な昔話。

35

くわずにようぼう 日本の昔話

稲田和子/再話 赤羽末吉/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約7分



昔、欲張りな男が、働き者で飯を食わない女房が欲しいといっていると、飯を食わないという女がやってきました。早速その女を女房にしましたが、女は鬼婆でした。鬼婆に追いかける男を、菖蒲や蓬が守ってくれるという端午の節句にちなんだ昔話絵本。p.28-29の文章がない場面では、p.27の文章「おとこは にげて にげて…」以降を読むとわかりやすい。

36

チワンのにしき 中国民話

君島久子/文 赤羽末吉/絵
ポプラ社

読み聞かせ
所要時間
約12分



昔、チワンの村でおばあが3年かけて錦(にしき)を織りますが、風にさらわれてしまいます。3人の息子が探しに旅立ちますが、末の息子の口口だけが、石の馬に乗り、火の山を越え、氷の海を渡り、錦を取り戻します。口口が家に戻り錦を広げると、錦の中の村が広がり…。中国のチワン族に語り伝えられた不思議で美しい昔話の絵本。

37

どうながのプレッツェル

マーグレット・レイ/文 H.A.レイ/絵
わたなべしお/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約5分



5月のある朝、5匹のダックスフントが生まれ、その中の1匹プレッツェルは、世界一胴長になり、ドッグショーで優勝します。みんなが感心する中、大好きなグレッタだけは知らん顔で、プロポーズにも「胴長は嫌い」とばかりです。ところがある日…。

幅広い年代の子どもが楽しめるユーモラスな絵本。

38

どこにいるの？シャクトリムシ

新開孝/写真・文
ポプラ社

読み聞かせ
所要時間
約4分



春になり木の芽が開く頃、体を縮めたり伸ばしたりして歩く虫がいます。シャクガの幼虫シャクトリムシです。いろいろな色や模様のシャクトリムシ、様々な隠れ方をするシャクトリムシを写真で紹介しています。文章が問いかける場面は、聞き手の子どもたちにも質問して、答えてもらいましょう。

39

とりになったきょうりゅうのはなし 改訂版

大島英太郎/作
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約5分



恐竜から鳥への進化の道筋をたどる科学絵本。

大昔、地球にはいろいろな種類の恐竜がいました。恐竜の中には、体が小さく「羽毛」が生えたものがあり、やがて木の上で暮らし、「翼」を持つものが現れます。今から6600万年前、恐竜はほとんど絶滅しますが、羽毛恐竜の子孫だけが生き残ります。恐竜の色や模様を推定する最新研究を反映させた改訂版。

40

ランパンパン インドみんわ

マギー・ダフ/再話 山口文生/訳
ホセ・アルエゴ、アリアンヌ・ドウィ/絵
評論社

読み聞かせ
所要時間
約9分



王様に女房をさらわれ怒ったクロドリは、「ランパンパン」と太鼓をたたいて宮殿へ向います。途中出会った、ネコやアリ、木の枝や川がクロドリの仲間になって、クロドリの耳の中にはいます。奇想天外なストーリーと、繰り返される「ランパンパン」の響きが印象的なインドの昔話の絵本です。



41

アリからみると

桑原隆一/文 栗林慧/写真
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約3分



巣穴からみる外はいい天気。アリが穴から出ていくと、見上げるような大きな足のトンサマバッタ。アマガエル、イナゴなど次々出会う小さな生き物が、迫力満点の大きさに登場します。自身が開発したカメラで小さな虫の世界を撮影することに成功した写真家の絵本。夏の匂いがいっぱいの1冊です。

42

おさらをあらわなかったおじさん

フィリス・クラジラフスキー/文
バーバラ・クーニー/絵 光吉夏弥/訳
岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約5分



一人暮らしのおじさんが、ある晩いつもよりお腹がすいたので、晩ごはんをたくさん作って、たくさん食べて、すっかりくたびれてしまい、お皿を流しに放っておきました。次の日も、もっとくたびれてお皿は流しに放ったまま。そのうちお皿がなくなると、灰皿や植木鉢で食べはじめ、家中が使った洗いでいっぱいになります。そのとき雨が降りだして…。

43

お化けの真夏日

川端誠/作
BL出版

読み聞かせ
所要時間
約5分



一つ目小僧は朝から雑木林で虫取り、美人のろくろ首は、果物屋にスイカを安くしてもらいます。夜には、流しそうめん、花火と夏の一日を過ごすお化けたちを、遠目のきくくきりした絵で描きます。短い絵本なので、もう1冊という時に。

44

かさどろぼう

シビル・ウェッタシンハ/作・絵 いのくまようこ/訳
徳間書店

読み聞かせ
所要時間
約8分



まだ傘のない村から初めて町へでかけたキリ・ママおじさんは、きれいな傘を買って帰りますが、だれかに盗まれてしまいます。何度買っても盗まれてしまいますが、さて犯人は…？おじさんは傘を取り戻し、傘の店をひらきます。ユーモラスで楽しいスリランカの絵本。

45

かもさんおととり

ロバート・マックロスキー/文・絵
わたなべしげお/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約11分



巣をつくる場所を探してボストンまで飛んできたカモのマラードさん夫婦。川の中州で8羽のヒナが生まれ、泳ぎや歩き方が上手になると、一家で公園の池に引っ越すことになり、一家は一列に並んで街じゅうを大行進します。大通りや交差点を横切るカモの一家でボストンの街は大わらわ。

46

きつねのホイティ

シビル・ウエッタシンハ/作 まつおかきょうこ/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約12分



スリランカの村に3人の元気のいいおかみさんが仲良く暮らしていました。そこへ、くいしんぼうギツネのホイティが、洗濯物で人間になりすまし、晩ごはんを食べにきます。3人はそれぞれ、騙されたふりをして、ごちそうしますが、ホイティが馬鹿にしていると知り、仕返しを思いつきます。陽気で愉快な南国らしい絵本。

47

歯いしゃのチュー先生

ウィリアム・スタイク/文・絵 うつみまお/訳
評論社

読み聞かせ
所要時間
約9分



ネズミのチュー先生は腕利きの歯医者です。でもネコやその他の危険な動物の治療はしません。ある日、歯が痛くてたまらないキツネを特別に治療してあげることに。ところが痛みが落ち着くと、キツネはチュー先生がおいしそうにみえてきます。それに気付いたチュー先生と奥さんは一計を案じます。

48

ぼくのぱんわたしのぱん

神沢利子/文 林明子/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約6分



パン屋さんでパンをみた子どもたちが、パンを作ろうと思いたち、一からパン作りをする様子を描く絵本。砂糖を溶かしたお湯に、イーストをいれ、膨らませるところからはじまり、パン作りの工程を温かみのある絵とリズムカルな文章で描きます。焼きあがったパンに子どもたちも満足する1冊です。



49

うまかたやまんば

おざわとしお/再話 赤羽末吉/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約7分



馬方が峠にさしかかると、山姥に追いかけて、荷物の魚から馬まですっかり食べられてしまいます。馬方が逃げて、一軒家の梁(はり)に隠れると、そこへ山姥が帰ってきます。山姥は甘酒を温め、うとうとし始めたので、馬方は梁の上から萱(かや)で吸いあげて飲んでしまい…。馬方と山姥の追いつ追われつの展開に子どもはドキドキしながら聞きます。

50

おまたせクッキー

バット=ハッチンス/作 乾侑美子/訳
偕成社

読み聞かせ
所要時間
約4分



お母さんが焼いたクッキーを兄弟2人で分けていると、玄関のベルが鳴り友だちが2人やってきます。そこで、4人で分けていると、また玄関のベルがなり、子どもが次々に増え、最後に子どもは12人となりクッキーは1枚ずつになってしまいます。でもそのとき、また玄関のベルが鳴ります。幅広い年代に楽しんでもらえる絵本です。

51

これがほんとの大きさ!

スティーブ・ジェンキンス/作 佐藤見果夢/訳
評論社

読み聞かせ
所要時間
約4分



体長8mmの世界一小さい魚ドワーフ・ゴビーや舌の長さが60cmあるオオアリクイなど、18種類の動物の全身や一部を実物大で紹介しつづけます。ページからはみ出すダイオウイカの目玉や、3ページにわたって描かれたイリエワニの口やゴライアスガエルなど迫力のある絵が読み聞かせにむきます。

52

サリーのこけももつみ

ロバート・マックロスキー/文・絵 石井桃子/訳
岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約11分



サリーとお母さんが、山にこけもも摘みにやってきたのと同じ時、山の反対側からは冬に備えてお母さんグマと子グマが、こけももを食べにきていました。サリーは、いつの間にか、お母さんとはぐれ、間違えてクマのお母さんの後について行ってしまいます。一方、子グマもお母さんを間違えて…。

53

だごだご ころころ

石黒漢子・梶山俊夫/再話 梶山俊夫/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約7分



ばあさんがだご(だんご)を作っているところへいこうとすると、だごは転がって、鬼の穴にはいってしまいます。鬼は混ぜると粉が増えるしゃもじをばあさまに渡して、毎日だごを作らせませす。しかし、ある日、ばあさんが昔助けた赤とんぼが飛んできて…。素朴で個性的な絵が味わい深い昔話絵本。

54

ひがんばん

甲斐信枝/作
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約5分



秋のお彼岸の頃に咲く彼岸花の不思議な生態を描いた科学絵本。球根からよきによきと茎を伸ばし葉もださず、一斉に花を咲かせる彼岸花は、咲き終わったあと花や茎から球根に養分を吸い戻します。それから葉を茂らせ、球根に養分を送り続け、球根を太らせ、仲間を増やしていきます。「曼珠沙華」「きつねのかんざし」など彼岸花がもつたくさんと呼び名も紹介されています。

55

ものぐさトミー

ペーン・デュボア/文・絵 松岡享子/訳
岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約11分



トミー・ナマケンボは、電気仕掛けの家に住んでいます。お風呂、歯磨き、着替え、食事まですべて自動です。ところがある日、嵐で電気が止まってしまう。1週間後、ようやく機械が動き出しますが、お風呂の水はつめたいし、食事は7日分ふってくるし…。本は小さめですが、とびきり愉快なストーリーが、子どもたちをひきつけます。

56

やまなしもぎ

平野直/再話 太田大八/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約8分



あるところに母親と3人の兄弟が住んでいました。病気の母親が、ある日、奥山の山梨が食べたいといひます。そこで、1番目の太郎が山梨もぎに出かけていきますが、沼の主に飲み込まれてしまいます。2番目の次郎も飲み込まれてしまい、3番目の三郎が出かけていきますが…。笹や鳥、ふくべの鳴る所はリズムカールに丁寧に。山梨が歌う歌も調子をつけて読んでみましょう。



57

あんな雪こんな氷

高橋喜平/文・写真
講談社

読み聞かせ
所要時間
約9分



おまんじゅうみたいに積もった雪、へびみたいにくねくねのびた雪、木に積もった恐竜の背骨みたいな雪、バームクーヘンみたいな転がってできた雪、UFOみたいな形の氷、でぶっちょだったり、のっぼだったりするつららなど、面白くて不思議な雪や氷の自然の姿を映した写真絵本。小さめの字での解説があり、学年に応じて読むところを変えることができます。しっかり準備しましょう。

58

おさととぼうしうり

エズフィール・スロポドキーナ/作・絵
まつおかきょうこ/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約8分



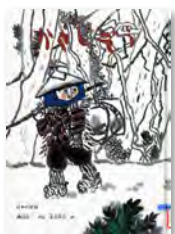
あるところに帽子を頭の上ののせて売り歩く行商人がいました。帽子が全然売れなかったある日、大きな木の下でひと眠りして目を覚ますと、頭の上に帽子がありません。木の上を見上げると、たくさんサルたちが帽子をかぶっています。さあ、帽子売りは、帽子を取り返すことができるのでしょうか。ストーリーも絵もユーモラスな1冊。

59

かさじぞう 日本の昔話

瀬田貞二/再話 赤羽末吉/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約5分



ある年の大晦日、貧乏なじいさんが編笠を作って町に売りに行きますが、一つも売れません。しかたなく家に帰る途中、吹雪の中で雪をかぶった地藏様が6人並んでいます。そこでじいさんは、寒かろうと笠をかぶせてやります。すると正月の朝…

扇形の構図を生かした美しい墨絵と素朴な語り口がぴったりとあった日本の昔話絵本。

60

せかいいちおいしいスープ

マーシャ・ブラウン/文・絵 こみやゆう/訳
岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約11分



3人のはらべこの兵隊は、通りかかったある村で、食べ物を求めますが、村人たちは食べ物を隠してしまい、何にもないと答えます。すると、兵隊たちは、石でスープを作ると言い出して、村人たちは興味津々で集まってきます。村人たちの騙されっぷりが楽しい昔話絵本です。

61

ねこのくにのおきゃくさま

シビル・ウェッタシン/作 松岡享子/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約10分



ねこの国の人たちは、働き者で何不自由なく暮らしていたが、何か足りなくなっていました。ある日、お面をかぶった不思議な2人組のお客がやってきて、歌ったり踊ったり。すっかり人気者になります。さて、この2人の正体は？

2人の正体は誰か、という謎が子どもたちをひきつけよく聞きます。絵は鮮やかで、猫たちの表情も魅力的。

62

はなのあなのはなし

やぎゅうげんいちろう/作
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約7分



鼻の穴の形や役目、鼻くそ、鼻血、鼻の構造などについて解説した科学絵本。「このほんは、はなのあなをしっかりとふくらましてよんでください。」というはじまりの扉からユーモラスな文章と親しみやすい絵で、子どもをひきつけます。

63

ゆうかんなアイリーン

ウィリアム・スタイク/作 おがわえつこ/訳
セラー出版

読み聞かせ
所要時間
約8分



アイリーンは風邪をひいたお母さんに代わって、出来上がったばかりのドレスを、お屋敷に届けに行きます。吹雪の中、風にドレスを飛ばされ、足をくじき、道に迷い、日が暮れ、雪にうずまり…。悪戦苦闘のアイリーンを誰もが応援したくなります。扉の絵からお話が始まっているので、読み聞かせの時には、この場面もゆっくり見せましょう。

64

よるのねこ

ダーロフ・イブカー/文・絵 光吉夏弥/訳
大日本図書

読み聞かせ
所要時間
約6分



夜になると、ねこは真っ暗な外にでて農場を歩きまわります。人には真っ暗で何も見えませんが、ねこの目には色付きで見えています。黒いシルエットで描く夜の風景と、ネコの目で見た色鮮やかな夜の風景が交互に描かれます。シルエットをみて何かを考えられるよう時間を取りましょう。絵ははっきりしており、遠くからもよく見えます。



65

ギルガメシュ王ものがたり

ルドミラ・ゼーマン/文・絵 松野正子/訳
岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約13分



太陽神から遣わされたメソポタミア王ギルガメシュは、人間の心を知りませんでした。王は自分の力を示すため高い城壁を造らせ人々を働かせ続けました。疲れ果てた人々が太陽神に助けを求めると...

5000年以上前に粘土板に記されたギルガメシュ叙事詩をもとにした絵本です。続編が2冊。

66

クマよ

星野道夫/文・写真
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約6分



アラスカの自然と野生動物、人々の暮らしをテーマに撮影活動をした星野道夫氏による写真絵本。クマは、春には子グマと遊び、夏には川にのぼるサケを食べ、秋には木の実を貪り、冬にははしずけさの中うずくまります。大自然に生きるクマの姿が、美しい写真に詩のような文章で綴られます。落ち着いた口調で読みたい絵本です。

67

しろいうさぎとくろいうさぎ

ガース・ウィリアムズ/文・絵 まつおかきょうこ/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約6分



森の中に住む白いうさぎと黒いうさぎは、いつも一緒に仲良く遊んでいます。ところが、黒いうさぎは時々悲しそうな顔をみせます。心配する白いうさぎに黒いうさぎは「いつまでもきみといっしょにいられますように」と願い事をしていると答えます。墨絵のような濃淡のある美しい絵が幻想的な雰囲気をつくりだします。

68

せかいでさいしょのポテトチップス

アン・ルノー/文 フェリシタ・サラ/絵
千葉茂樹/訳
BL出版

読み聞かせ
所要時間
約9分



料理が大好きなクラムさんのレストランは大にぎわいで、お客さんも大満足です。ところがある日、ひとりの紳士が、注文した揚げポテトを何度も突き返し…。実在の人物をヒントにかかれたポテトチップス誕生の物語。
紳士の名前をつかえないように練習しましょう。

69

なんでも見える鏡 ジブシーの昔話

フィッツォフスキ/再話 内田莉莎子/訳
スズキコージ/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約10分



ジブシーの若者が、けちんぼうな主人を見限って旅にでると、途中で銀色の魚、鷲の子ども、蟻の王さまに出会って助けてやります。やがてたどりついたある国で、「なんでも見える鏡」を持った王女から隠れることができた者が王女の夫になれると聞き、若者は名乗り出ます。素朴でロマンチックな昔話。大胆で力強い絵が読み聞かせにむきます。

70

ひよこのかずはかぞえるな

イングリ・バーリン・ドーレアと
エドガー・バーリン・ドーレア/作 せたていじ/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約7分



毎日休まず卵を産む雌鶏を飼っているおばさんは、36個の卵を持って街に売りに出かけます。その道すがら、売ったお金の使い道を考えはじめます。「この卵を売ったら、雌鶏をもう2羽買って、次は3羽。それからガチョウを2羽と子羊を1匹。」と夢が広がり、あげく大農場の奥方様になるという空想にふけりますが…。ことわざを基にした笑い話。

71

ふしぎなやどや

はせがわせつこ/文 いのうえようすけ/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約8分



旅商人の趙は、板橋という町で評判のいい三娘子（さんじょうし）の宿に泊まります。夜、眠れずにいた趙が、壁の隙間から覗くと、三娘子が、木の人形や牛にソバを作らせていました。翌朝、そのソバで作ったソバ餅を朝食に食べた客たちは、みんな口バになってしまいます。そこで趙は、一計を案じます。中国に伝わる不思議な雰囲気のある昔話。

72

世界のなぞかけ昔話 全3巻

ジョージ・シャノン/文 ピーター・シス/絵
福本友美子/訳
晶文社



魚釣りに出かけた2人のお父さんと2人の息子。1人1匹ずつ釣れたのに魚は全部で3匹。さあどうして？世界各国に伝わる昔話の難題やとんちを、なぞなぞに仕立てた一風変わった昔話集。3冊で43編を収録。しっかりストーリーのある絵本等と組み合わせて、1編ずつ楽しみましょう。



73

こかげにごろり 韓国・朝鮮の昔話

金森襄作/再話 チョン スクヒャン/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約6分



ある村の百姓たちは欲張りな地主に困っていました。ある夏の日、木陰で休もうとした百姓は、地主に木陰を買い取って入れと言われ、村のみんなで買い取ります。秋が近づくにつれ、木陰はどんどん延びて地主の家の中へ…。

74

たまごからうま

酒井公子/再話 織茂恭子/絵
偕成社

読み聞かせ
所要時間
約11分



案がしたいと馬を買うことにしたダー。市場で馬の卵だとだまされ、カボチャを買うことに。帰る途中、道で居眠りをしていると、通りかかったキツネがつまずいて、カボチャが割れてしまいます。逃げていったキツネを、卵から生まれた馬だと勘違いしたダーは必死で追いかけます。ダーの間抜けぶりが楽しいベンガルの昔話。

75

ちょうちんまつり

唐亜明/文 徐楽楽/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約15分



お百姓の王七（わんちい）は、提灯祭りの日、いつもより畑仕事を早く終えて家に帰ろうとします。ところがある洞穴で、二人の老人がさしている暮を見物しているうちに、何百年もの時間がたってしまいます。もとの時代に戻るためには、月の白ウサギに木の実を、竜に水をもらわなくてはなりません。中国の古典『列仙全伝』からの再話です。

76

ねむりひめ

フェリクス・ホフマン/絵 せたていじ/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約10分



お姫様は古い女に呪いをかけられ、15になったある日、つむ（糸をまきとる道具）に刺され、100年の眠りにつきます。100年後、ひとりの皇子が姫を見つけキスをするると姫は目を覚まします。2人は結婚し一生幸せに暮らします。有名なグリムの昔話。繊細な線で描かれる重厚な絵が味わい深いです。

77

光の旅 かげの旅

アン・ジョナス/作 内海まお/訳
評論社

読み聞かせ
所要時間
約4分



白と黒だけのはっきりした絵で描く、一種の仕掛け絵本。
明け方、家を出て、町や農場、麦畑、山や海辺を通り町にたどりつく頃、太陽が沈みます。ここで本を逆さまにすると、夜の情景になります。町をでて、花火を見物し、雨に降られたりして家に帰ります。光と影が逆転する仕掛けに子どもたちも喜びます。

78

ふるやのもり 日本の昔話

瀬田貞二/再話 田島征三/絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約8分



ある雨の晩、じいさんとばあさんの家に馬泥棒と狼がそれぞれ忍び込みます。おじいさんとおばあさんが、この世で一番怖いのは泥棒よりも狼よりも「ふるやのもり」だと話すのを聞いた馬泥棒と狼は、雨漏りのしずくに驚き、家を飛び出して…。
ダイナミックな土臭い絵が、ユーモラスなほら話にぴったりの昔話絵本。

79

よあけ

ユリー・シュルヴィッツ/作・画 瀬田貞二/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約5分



唐の詩人柳宗元の詩「漁翁」をモチーフに描かれた詩の絵本。湖のほとりの木の下で、おじいさんと孫が眠っています。静かで動くものがない夜から、そよ風がふき、もやがこもり、鳥が鳴き、ゆっくりと夜が明けはじめます。2人がボートに乗って湖に漕ぎ出ると、日が昇り、山と湖が一斉に緑色に。美しい水彩画と選ばぬかれた言葉で綴られた静かな文が、深い印象を残す1冊。

80

ロバのシルベスターとまほうの小石

ウィリアム・スタイグ/作 せたていじ/訳
評論社

読み聞かせ
所要時間
約13分



小石を集めるのが好きなロバのシルベスターは、ある夏の日、願いが叶う魔法の赤い小石を見つけます。ところがライオンに出会い、とっさに「岩になりたい」と願ってしまいます。父さんと母さんは、シルベスターを探しまわりますが見つからず、季節は過ぎていきます。そして次の春のある日…。
ドラマティックな物語が聞きごたえ充分です。



81

あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま

イ ヨンギョン/文・絵 かみやにじ/訳
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約7分



ある日、針仕事の上手な奥さんが、昼寝をしていると、針仕事に使う物差し、鉄、針など7つの道具がそれぞれに「自分が一番役に立つ」と言い争いはじめます。その騒ぎに目を覚ました奥さんは、「一番偉いのは私だ」と怒りだし…。韓国の古典をもとにした創作絵本。

82

うさぎのみみはなぜながい

北川民次/文・絵
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約11分



メキシコの昔話絵本。あるとき、ウサギは山の神様に体を大きくしてほしいと頼みます。神様は、虎とわにと猿を自分の手で殺して皮を持ってきたら願いをかなえてやろうとします。ウサギは知恵をしぼって、やり遂げますが…。

メキシコに住んだ日本人作家が再話。力強い絵が魅力的で、ストーリーは子どもたちを惹きつけます。

83

がちょうのペチューニア

ロジャー・デュボワザン/作 松岡享子/訳
富山房

読み聞かせ
所要時間
約13分



おばかさんのがちょうのペチューニアは、ある日、本を拾います。本を持っていると賢くなると信じていたペチューニアは、その本をいつも持ち歩き、自分が賢くなったと思ひ込み得意顔。そこで、次々と動物たちの相談にのりますが、見当はずれの答えばかり…。ペチューニアの答えに振り回される気のいい動物たちがユーモラス。このペチューニアが登場する絵本は他にも5冊あります。

84

ジェイミー・オルークとおばけイモ アイルランドのむかしばなし

トミー・デ・バオラ/再話・絵 福本友美子/訳 光村教育図書

読み聞かせ
所要時間
約9分



怠け者のジェイミー・オルークは、何もかもおかみさんまかせ。ところがおかみさんが寝込んで困っていた時、偶然妖精に出会い、願い事を叶えてくれることになりました…。とぼけた味のある絵がほら話にぴったりの絵本。『ジェイミー・オルークとなぞのプーカ』もおすすめ。

85

しょうたとなつとう

星川ひろ子、星川治雄/写真・文
小泉武夫/原案・監修
ポプラ社

読み聞かせ
所要時間
約8分



しょうたとおじいちゃんが、大豆をまいてから、納豆ができるまでを追った写真絵本。

納豆嫌いのしょうたは夏の初めにおじいちゃんと畑に青大豆をまきます。花が咲き、さやができると、ゆでて枝豆を食べます。秋になると、茶色くなった大豆を収穫。冬の朝、大豆をゆでてわらづとにいれると、2日後、大豆はとっておきの変身をして、納豆になります。しょうたは納豆をおいしく食べます。

86

空とぶじゅうたん アラビアン・ナイトの物語より

マーシャ・ブラウン/再話・絵 松岡享子/訳 アリス館

読み聞かせ
所要時間
約20分



フセイン、アリ、アーマッドの3人の王子は、美しいノア・アルニハ王女と結婚するため、父王の命令で、世にも珍しい宝物を探すため旅に出ます。最も珍しい宝物を持ち帰ったものが結婚できるのです。フセインは行きたいところに行ける空とぶじゅうたんを、アリは見たいものが見える遠眼鏡、アーマッドはどんな病気も治る魔法のりんごを、それぞれ手に入れます。色鮮やかな絵が印象的な1冊です。

87

にぐるまひいて

ドナルド・ホール/文 パーバラ・クーニー/絵
もきかずこ/訳
ほるぷ出版

読み聞かせ
所要時間
約7分



10月。父さんは、家中みんなが1年間作り育てたものを、荷車に積込んで市場へ売りに行きます。そこで、羊毛、蠟燭、ショール、じゃがいも、蜂蜜、楓砂糖などを売り、最後に荷車も牛も売ってしまいます。そして、次の1年間に必要なものを買ひ、家族の待つ家に帰っていきます。19世紀初めのアメリカの農民の生活が淡々と描かれる美しい絵本。

88

干し柿

西村豊/写真・文
あかね書房

読み聞かせ
所要時間
約8分



日本の伝統的な保存食干し柿のできるまでを追った写真絵本。渋柿の皮を手でむき、縄でつなぎ、軒下で干していきま。太陽の光を浴びて輝く柿が、ずらりと干された場面は圧巻の美しさ。最後は、藁の上で平らに干して出来上がります。後半の子どもたちによる干し柿づくりは、こちらもやってみたくになります。秋の読み聞かせにぜひ。



89

ありがたいこってす！ ユダヤの民話から

マーゴット・ツェマック/作 わたなべしげお/訳
童話館出版

読み聞かせ
所要時間
約10分



むかし、貧しい男が母親とおかみさんと6人の子どもたちと一部屋しかない小さな家に住んでいました。家があまり狭くて、言い争いや喧嘩が絶えません。ラビに相談すると、飼っているひなとりとおんどりとガチョウを家に入れて暮らすように言われてしまい…。

ユダヤのユーモアある昔話。

*ラビ：ユダヤの法律博士、先生

90

アンナの赤いオーバー

ハリエット・ジューフェルト/文
アニタ・ローベル/絵 松川真弓/やく
評論社

読み聞かせ
所要時間
約9分



アンナのオーバーは、すりきれて小さくなってしまいました。でも、戦争が終わってすぐのお店に品物は何もなかったので、お母さんは、うちにある素敵なものとオーバーの材料を交換していくことを思いつきます。たくさんの時間と人の手を経て出来上がったアンナのオーバー。実話にもとづいた温かいおはなしです。

91

いしになったかりゅうど

大塚勇三/再話 赤羽末吉/画
福音館書店

読み聞かせ
所要時間
約10分



モンゴルの昔話絵本。狩人ハイリブは、へびを助け、動物の言葉がわかる宝の玉をもらいましたが、玉によって知ったことは決して話してはなりません。ところが、ある日動物たちは洪水がくると、逃げはじめます。ハイリブは村人に洪水がくるとを告げることにし…。絵本がぐらぐらしないようにしっかりと持ち、落ち着いた口調で読みたい絵本です。

92

シンドバッドの冒険

ルドミラ・ゼーマン/文・絵 脇明子/訳
岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約10分



「千夜一夜物語」から、船乗りシンドバッドの冒険のうち、クジラの島、ロク鳥、ダイヤモンドの谷など有名な場面をまとめた絵本。スリルたっぷりの冒険が、ベルシャ絨毯のデザインをとり入れた繊細で華麗な絵で描かれます。

冒頭の「千夜一夜物語」の説明は、省略することもできます。（所要時間は省略した場合で約10分）このシリーズは全3冊あります。

93

ちいさいおうち

バー吉ニア・リー・パートン/文・絵 いしいももこ/訳
岩波書店

読み聞かせ
所要時間
約15分



田舎の静かなところに建っていた小さいおうちをめぐる時間の流れを描いた絵本。小さいおうちは、移り変わる季節の景色をながめて、長い間幸せに暮らしていました。ところが、車が走りはじめ、家が立ち並び、田舎は町になってしまいます。小さいおうちには住む人もいなくなり、そのうちビルの谷間に埋もれて、しょんぼりしてしまいますが…。

94

フレデリック

ちょっとかわったのねずみのはなし

レオ＝レオニ/作 谷川俊太郎/訳 好學社

読み聞かせ
所要時間
約6分



ある古い石垣の中に、5匹の野ねずみが住んでいました。冬が近くなると、4匹は食べ物とせせと集め始めますが、フレデリックだけはじっとしたまま動きません。何をしているのかと聞くと、冬のために光や色、言葉を集めていると答えます。さて冬を迎え、食べ物が底をつき始めると…。詩的な文章と象徴的なストーリーが独特の絵本。お好きな方に読んでほしい一冊。

95

雪の写真家 ベントレー

ジャクリーン・ブリッグズ・マーティン/作
メアリー・アゼアリアン/絵 千葉茂樹/訳
BL出版

読み聞かせ
所要時間
約11分



ウィリーは雪が大好き。雪の美しさはどんなものにも負けないと思っていました。古い顕微鏡を手に入れ観察してみると、雪の結晶が思っていたよりもずっと細やかで美しいことに驚きます。農夫として小さな村で暮らしながら、生涯にわたって研究を続け、世界的な雪の専門家として認められます。ベントレーの伝記絵本。

96

富士山に のぼる

石川直樹/著
教育画劇

読み聞かせ
所要時間
約9分



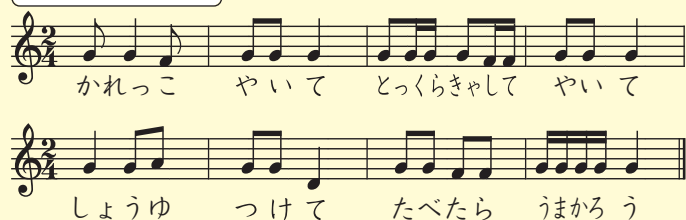
冬の富士山にひとり著者は、雪を踏みしめながら登っていきます。日暮れになるとテントをはり、食事をとり、寝袋で一夜を過ごし、翌朝、荒れ狂う風の中、頂上を目指します。富士山の雄大な自然や厳しい登山の様子を写真でとらえた絵本。富士山に「のぼれば、かならず、新しい世界にであうことができる。」著者のメッセージが胸をうちます。

いなかのおじさん



歌に合わせて、①→⑤、⑤→①の順に触っていく。歌い終わったとき、触っていた指を折る。残りの指で同じことを繰り返し、最後の指を折ったら終わり。

かれっこやいて



(かれっこ～) 手の甲を上に向け4回上下にふる
(とっくら～) 手の平を上に向け4回上下にふる
(しょうゆ～) 片手の手の平を人差し指で(刷毛で塗るように)なでる
(たべたら～) 両手を口にあて、ほったたをなでる

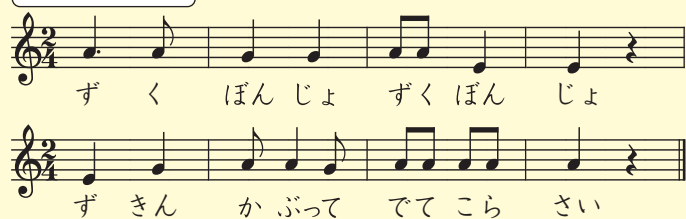
※「かれっこ」はかかれ、「とっくらきゃして」はひっくり返しての意味。
「かれっこ」、「しょうゆ」を他のものに変えても楽しめる

こどもかぜのこ



体の前で、両手で「ぐー」をつくる。
「こどもかぜのこ」では、「ぐー」を交互に突き出して動かす。
「じじばばひのこ」では、「ぐー」で寒がってるしぐさをする。

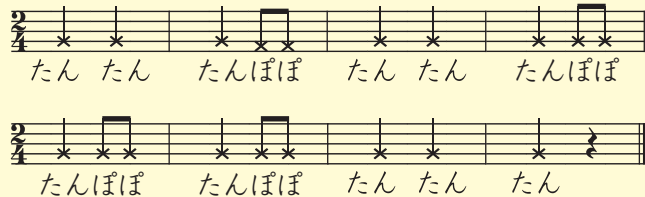
ずくぼんじょ



※ずくぼんじょとは「つくし」の呼び方
つくしを手の中に入れて歌う
「でてこらさい」のあと、「にょきにょき」と、手からつくしが生えるように出す。
(つくしは、折り紙で作ってもよい。)



たんたんたんぽぽ



「たん」で手の平をあわせてたたく。
「ぽぽ」のときに、自分の両ほほを軽くたたく。



なかなかほい

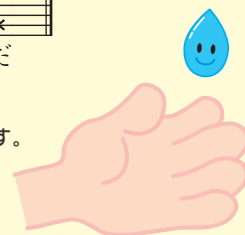


体の前でつくった「ぐー」の手を、「なかなかほい」は内側に、「そとそとほい」は外側に振る。「なかと…」と「そとなか…」は、「なか」で内側、「そと」で外側に振る。

ぼつつんぼつつん



「ぼつつん・あめだ」、最後の「あめだ」で手の平を人差し指でつついて雨をふらせます。「ざあー」で、手のひらをくすぐります。



もどろもどろ



手の甲を上にして揺らしながら「もどろ…」と歌う。
手の平をくるっと返して、手の平を上にして揺らしながら「かえろ…」と歌う。



準備

絵本選びが大切です

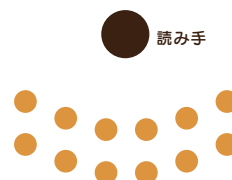
読み聞かせをするとき、最も大切なのは、絵本選びです。まずは30年、40年と長く読み継がれてきた絵本から選びましょう。その中から、自分がおもしろい、子どもたちと楽しみたいと思う絵本を選びましょう。長く、子どもたちから支持を得てきた絵本は、世代を超えて子どもたちを喜ばせることのできる絵本です。

プログラムを組みましょう

2冊以上の絵本を読む場合は、まず中心となる絵本を選びましょう。聞き手にあわせて、決めてください。そのあと、組み合わせる絵本を決めましょう。バランスを考え、バラエティに富んだプログラムとなるよう考えてください。

どの子どもからもよく見える絵本を選びましょう

読み聞かせする絵本は、どこに座った子どもからもよく見える絵であることが大切です。遠くから見えて、絵や色がはっきりしたものを選びましょう。読み聞かせをする場所、子どもたちの人数を想定して、確認しておくことが大切です。



開きぐせをつけましょう

本をめくりやすく、きれいに開くようにするために、あらかじめ絵本には、開きぐせをつけましょう。本の長持ちにもつながります。

声に出して練習しましょう

子どもの前で読み聞かせする前には、必ず練習をしましょう。黙読するだけではなく、声に出して、本番と同じように読んでください。子どもに本を見せるように手に持って、スムーズにめくれるように練習しましょう。

さあ、読み聞かせしましょう

読み始める前に

子ども前にたったら、どの子にも絵本が見えているかを確認しましょう。見えにくい子がいれば、移動してもらったりして、調整してください。どの子もこちらを見ているか確認してから、読みましょう。

読み始め

表紙を見せて、タイトルをはっきりと読みます。作者の名前は読んでも読まなくてもどちらでもいいでしょう。見返し、扉と、前から順にページをめくりましょう。扉で、もう一度タイトルを言い、本文に入りましょう。

絵本の持ち方

絵本がぐらぐらしたり傾いたりしないように、安定した持ち方をしましょう。聞き手の子どもが椅子に座しているときは、読み手は立ち、子どもが床に座しているときは、椅子に座って読むとよいでしょう。

ページのめくり方

ページをめくるときは、絵本の画面を腕で隠さないように、ページの上か下の端を持ってめくりましょう。一度に2枚めくらないように気を付けてめくりましょう。

しっかりはっきり読みます

後ろの子どもまで届く声で読みましょう。こつや技術は必要ありません。素直に、飾り気なく、心をこめて読みましょう。声色を使ったりする必要はありません。

読む速さ

読んでいく速度、ページをめくる速度は、それぞれのお話の流れにあわせましょう。ページをめくった瞬間は、聞き手が絵に集中するので、ひと呼吸、間をとってから読みましょう。それぞれの物語全体の流れをつかんで、その流れに乗って読むことが大切です。自分で物語を語る気持ちで読みましょう。

読み聞かせにおすすめの絵本のブックリスト

絵本の庭へ

東京子ども図書館/編
東京子ども図書館 2012



1950年代から2010年までに刊行された絵本から、繰り返し読まれてきた選りすぐりの1157冊を紹介しています。キーワードから探せる件名索引が充実。集団の子どもたちへの読み聞かせにおすすめや小学校中級以上の子にもおすすめのマークなども付与されており便利。

読み聞かせABC

— 集団の子どもたちへの読み聞かせに — 改訂版

東京都立多摩図書館/編
東京都 2019



集団の子どもたちへの読み聞かせにむく絵本210冊を紹介しています。各絵本に、対象年齢や読み聞かせに要する時間も記載されています。まずは、ここからはじめましょう。

よみきかせのきほん

— 保育園・幼稚園・学校での実践ガイド —

東京子ども図書館/編
東京子ども図書館 2018



集団の子どもたちへの読み聞かせにむく絵本を237冊、子どもの成長段階によって、4つのグループにわけて紹介します。読み聞かせの所要時間も記載されています。

小学校での読み聞かせガイドブック

— 朝の15分のために — 改訂版

湯沢朱実/ほか編著
プランニング遊 2014



小学校での読み聞かせにむく絵本を学年ごと、プログラムごとに紹介します。さらに、ことば遊びや詩の本の紹介では、効果的に読み聞かせする方法にも触れています。

子どもの本・子どもの読書について

えほんのせかい こどものせかい

松岡享子/著
日本IT・イタル出版部1987
(文春文庫 2017)



子どもの読書についての基本的な大人の態度を、やさしい語り口で書いた必読書です。

子どもと本（岩波新書）

松岡享子/著
岩波書店 2015



子どもと本とをつなげる活動に尽力してきた著者が、長年の実践と経験に裏付けられた思いや考えを、たっぷりと語ります。

サンタクロースの部屋

松岡享子/著
こぐま社 2015



子どもを本の世界に誘い込むために大人が配慮すべきことは、子どもと本、子どもの言葉についてのエッセー集です。出版40年を迎えてなお、古びることのない普遍性を感じる一冊です。

幼い子の文学（中公新書）

瀬田貞二/著
中央公論社 1980



戦後の児童文学に大きな足跡を残した著者の連続講話を再現した一冊。童謡、詩、幼年物語を中心に、著者の深い造詣を語りながら、子どもの文学の本来の姿を示してくれる。繰り返し読み続けたい。

絵本論

瀬田貞二/著
福音館書店 1985



雑誌掲載のエッセーや単行本から、子どもにとってのあるべき絵本について語った著者の論の集大成。出版30年を超えた今でも古びない絵本の本質が、読みやすい言葉で語られています。

絵本の本

中村柊子/著
福音館書店 2009



保育の現場で、長年子どもたちと絵本を楽しんできた著者が、絵本にまつわるさまざまな疑問について語り、「子どもが楽しむ」絵本について理解が深まります。やさしく丁寧な文章で読みやすい1冊です。

絵本の記憶、子どもの気持ち

山口雅子/著
福音館書店 2014



「思い出の絵本」という女子大生達のレポートから、子ども独特の絵本の楽しみ方をエッセイ仕立てで紹介しています。

読む力が未来をひらく — 小学生への読書支援 —

脇明子/著
岩波書店 2014



小学生が本当に本を読めるようになるには、どうしたらよいのか。子どもの読書について考察を重ねてきた著者が、改めて読書の意味、すすめたい本、届ける方法について力強く語ります。

本誌は、季刊『よみきかせボランティアのためのおすすめえほん』（福井県立図書館子ども室編）2012夏号から2020春号を再構成し冊子版としたものです。

編集発行／福井県立図書館子ども室
2021年3月発行
〒918-8113 福井市下馬町51-11
TEL. 0776-33-8860